

重点分野 2	環境と調和した均衡ある経済成長の実現											
	<p>【現状と課題】</p> <p>モンゴルのGDP(名目)における産業別構成比(2019年)は、鉱業(採掘・採石)が24.3%と最大であり、輸出に占める割合、歳入・FDIソースとしての存在感等も踏まえると、モンゴル経済は鉱物資源セクターへの依存度が高い構造となっている。産業別構成比では、卸・小売業(16.2%)、製造業(11.2%)、農牧業(10.9%)が鉱業に続くものの、周辺他国との比較において製造業のシェアが低く留まっているのが特徴である。同国の持続的かつ安定的な経済発展を実現するためには、国際価格変動の影響を受けやすい鉱業に極端に依拠せず、産業の多角化を促進することが課題である。</p> <p>また現在、経済活動の拠点となっている首都ウランバートルにおける地方からの人口流入(移住)は緩むことなく、1998年に65万人程度だったウランバートル市の人口は、2019年には154万人に増大し、総人口に対するウランバートル市人口の占める割合も約47%に達している。首都一極集中の進行による都市問題の顕在化は、経済的損失にも影響していることから、今後は首都ウランバートルの都市機能を強化するのみならず、中長期的視点から、人口流出源である地方の開発に目を向け、地方資源を踏まえた産業振興と地域経済活性化を通じ、バランス良く人口の地方定住を促していくことが必要となっている。</p>					<p>【開発課題への対応方針】</p> <p>中長期におよぶ安定的な経済成長に欠かせない産業多角化を加速するべく、日本企業の投資・進出と連携しつつ、主にモンゴル企業の大多数を占める中小企業を対象とした民間セクター開発を推進する。特に、非鉱業セクターでポテンシャルの高い農牧業及び農畜産加工業、観光業等の産業振興を念頭に、産業政策の動向を睨みつつ、輸入代替・輸出振興につながる取組みを強化する。また、モンゴルの経済を牽引する鉱業セクターの持続的開発に向けた人材育成を継続する。</p> <p>これら産業多角化を抜本的に推進するためには、経済活動や人口の首都ウランバートルへの一極集中を緩和しつつ、地方資源の動員・活用により、地域・都市間の均衡ある開発への取組みが欠かせない。そのため、産業多角化と連動して地域開発戦略の強化を図り、経済回廊等の設定による地域開発の可能性を追求する。</p> <p>また、将来的な産業界の発展を担う工学系産業人材の育成及びモンゴル・日本人材開発センター等を活用した就労・起業支援に従事するとともに、高等等の関連する教育体制の強化を検討する。</p> <p>これら一連の取組みにおいて、産業人材育成の拠点として、モンゴル・日本人材開発センターの役割を強化するとともに、日本・モンゴル経済連携協定(EPA)発効を踏まえ、両国企業間のビジネス交流の拠点としても、同センターの機能を拡充する。</p> <p>上記方針を通じ、持続可能な開発目標8(成長・雇用)、9(イノベーション)、11(都市)等の達成に貢献する。</p>						
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
開発課題 2-1 産業多角化の推進と地域開発戦略の強化 産業多角化の推進と地域開発戦略の強化プログラム		産業多角化及びこれと連動する地域開発戦略を強化することにより、中長期的観点から、モンゴルの財産である自然環境と調和した、均衡ある経済成長の実現を目指す。	モンゴル・日本人材開発センター・ビジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクト	技プロ	2019年度以前	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	4.80	
	モンゴル・日本人材開発センター・ビジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクトフェーズ2	技プロ							4.71			
	人材育成奨学計画	無償							8.00	他協力プログラムにも記載		
	工学系高等教育支援計画	有償							75.35			
	産業多角化・地域開発分野の研修	課題別研修他							-			
	獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクト	技プロ							5.24			
	遊牧民伝承に基づくモンゴル草原植物資源の有効活用による草地回復プロジェクト	科学技術							3.55			
	結核と鼻祖の制圧プロジェクト	科学技術							3.48			
	農牧業分野の草の根技術協力	草の根技協							-			
	国家総合開発計画策定プロジェクト	開発計画							3.50			
	鉱物資源セクター人材育成プロジェクト	技プロ							-			
	鉱業分野人材育成	国別研修							-			
	公務員獣医師及び民間獣医師実践能力強化プロジェクト	技プロ							3.41			
	農牧業バリューチェーン開発のためのマスタープランプロジェクト	開発計画							3.27			
	営農促進機器を活用した持続可能な農業生産性向上のための案件化調査	案件化調査										
	産業人材育成分野の海外協力隊	JOCV										
農業分野におけるバリュー・チェーンの構築支援(TA)	マルチ							2.0百万USD	JFPR			
生活改善のための共同野菜農業経営プロジェクト(GA)	マルチ							3.0百万USD	JFPR			

			野菜生産及び灌漑農業開発 (TA)	マルチ						2.0百万USD	JFPR	
			フスグル湖国立公園地域における地域住民の生活改善および持続的観光産業振興(GA)	マルチ						3.1百万USD	JFPR	
開発課題2-2 成長を支える質の高いインフラの整備	成長を支える質の高いインフラの整備プログラム	「質の高いインフラ」の視点を踏まえ、運輸交通・エネルギーインフラの整備及びその適切な運営・維持管理の実現に向けた支援を通して、モンゴルの更なる経済成長に貢献することを目指す。	新ウランバートル国際空港建設計画 (I) (II)	有償						656.57		
			新ウランバートル国際空港の人材育成及び運営・維持管理能力向上プロジェクト	技プロ							6.43	有償助定技術支援
			ウランバートル第4火力発電所効率化事業	有償							42.01	
			ツェツィー風力発電事業	有償								海外投融資
			建設分野における労働安全管理能力強化プロジェクト	技プロ							2.25	
			モンゴルの気候条件に適した道路舗装技術能力向上プロジェクト	技プロ							3.37	
			道路アセットマネジメント技術のための研究開発	国別研修							-	
			人材育成奨学計画	無償							8.00	他協力プログラムにも記載
			モンゴル国における鉄道カーブ区間用レール締結装置の普及・実証事業	普及・実証・ビジネス化事業							-	
			インフラ・エネルギー分野の研修	課題別研修他							-	
開発課題2-2 成長を支える質の高いインフラの整備	成長を支える質の高いインフラの整備プログラム	「現状と課題」 近年のウランバートル市への一極集中により都市インフラ整備が追い付かず、大気汚染・上下水・廃棄物等の都市環境問題が住民生活に影響を及ぼしている。さらに、気候変動の影響や近年、増加傾向にある地震に対しても、強靱かつ環境に優しく安全な都市の開発が必要である。また、暖房供給システムや上下水道等の公共施設が整備されていないゲル地区の無秩序な拡大が進んでおり、土地の無償分配・私有化政策の実施や土地利用等にかかる都市計画・管理体系の十分な整備が必要である。	【開発課題への対応方針】 無秩序に拡大するゲル地区の適切な開発管理や都市環境問題を緩和するための支援等を通じて、環境に優しく安全な都市の実現に貢献する。特に、住民生活に大きな影響を及ぼしている環境問題に対応することが最優先課題との認識のもと、大気汚染問題への対処に向けて、これまでの支援を踏まえた上で実効性のある対策策定・実施を支援する。 また、大気汚染や土壌汚染等の都市環境問題の原因の一つとなっているゲル地区については、継続支援してきた都市計画・開発関連分野の法的・制度的枠組みを踏まえながら、ゲル地区再開発事業の着実な実施・モニタリングに係る組織体制・能力強化への展開を図る。 なお、ゲル地区を含めた都市開発に当たっては、地震等の災害や建設工事による事故のリスクや被害を軽減する街づくりを目指すことも踏まえ、前者に対しては中央防災機関の強化を通じた建造物耐震化等の対策を、後者に対しては工事中の安全対策等の制度設計及び実施に向けた支援を行う。さらに、地球規模の課題である気候変動への取組みとして、緩和と適応双方の対策策定・実施を支援する。 上記方針を通じ、持続可能な開発目標6 (水・衛生)、9 (イノベーション)、11 (都市)、13 (気候変動) 等の達成に貢献する。									
			ウランバートル市大気汚染対策能力強化プロジェクトフェーズ3	技プロ							4.50	
			モンゴル地震防災能力向上プロジェクト	技プロ							4.67	
			国家温室効果ガスインベントリの継続的な改善サイクル構築にかかる能力向上プロジェクト	技プロ							2.87	
			人材育成奨学計画	無償							8.00	他協力プログラムにも記載

【現状と課題】
 モンゴルでは急速な経済発展の一方で、国内の経済格差も深刻さを増しており、特に障害者の社会包摂は十分に達成されているとは言えない。課題は就学前段階における障害の早期発見から、教育機会の提供、日常生活におけるアクセシビリティの確保、雇用促進に至るまで広範にわたるが、そもそも政策判断の根拠となる障害統計が未整備であり、障害年金受給者や就学児等限られた層の情報しか入手できないことがボトルネックの一つとなっている。加えて、2020年に世界的に拡大している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などに対しては、テレビ授業を受ける障害児の情報へのアクセス改善が課題である。

【開発課題への対応方針】
 障害児教育では、障害児のニーズに合った発達支援モデルの構築、早期診断・発達支援・障害児教育の実施能力強化を支援する。障害者の社会参加促進では、まずはウランバートル市において障害者情報の整備、障害者の団体の能力強化及び物理面・情報面のアクセシビリティの改善、労働・社会保障省の能力強化を支援する。また、モンゴル国内の障害児／者、術後患者に対するリハビリテーションの現状に関して情報収集を行い、アプローチ方法を検討する。
 上記方針を通じ、持続可能な開発目標4（教育）、10（不平等）等の達成に貢献する。

開発課題 3-3 障害者の社会参加・社会包摂の推進	障害者の社会参加・社会包摂の推進プログラム	障害児・者に対し、入口（障害の早期発見）から出口（就労・社会参加）まで一貫した支援を行うことで、障害児がニーズに合った適切な発達支援・教育サービスを受用することができるようになり、障害者の社会参加が促進されることを目指す。	障害児のための教育改善プロジェクト	技プロ	—						4.00	
		障害児のための教育改善プロジェクトフェーズ2	技プロ								3.51	
		ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト	技プロ	—							2.65	
		障害者就労支援制度構築プロジェクト	技プロ		—						3.32	
		社会保険分野における財政検証実務能力強化	国別研修			-----					-	
		人材育成奨学計画	無償								8.00	他協力プログラムにも記載
		障害と開発分野の研修	課題別研修他								-	
		障害者支援分野のボランティア	JOCV								-	
		障害者支援分野の草の根技術協力	草の根技協	—							-	
		障害者支援分野の草の根無償	草の根無償	—								
		身体障害者のための雇用機会創出プロジェクト（GA）	マルチ								2.80百万USD	JFPR

【凡例】 「協準」（＝全ての協力準備調査）、「詳細設計」（＝詳細設計）、「技プロ」（＝技術協力プロジェクト）、「開発計画」（＝開発計画調査型技術協力）、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」（＝課題別研修及び青年研修）、「JOCV」（＝JICA海外協力隊）、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」（＝科学技術協力（技プロ型及び個別専門家型））、「草の根技協」（＝草の根技術協力）、「〇〇省技協」（＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力）、「民間提案型技協」（＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業）、「無償」（＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力）、「水産無償」（＝水産無償資金協力）、「食糧援助」（＝食糧援助）、「一般文化」（＝一般文化無償資金協力）、「草の根文化」（＝草の根文化無償資金協力）、「緊急無償」（＝緊急無償資金協力）、「日本NGO」（＝日本NGO連携無償資金協力）、「草の根無償」（＝草の根・人間の安全保障無償資金協力）、「有償」（＝円借款、海外投融資）、「情報収集調査」（＝基礎情報収集・確認調査）、「マルチ」（＝国際機関等を通じた多国間協力スキーム）、「基礎調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」）、「案件化調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」）、「普及・実証・ビジネス化事業」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」）、「実線「———」（＝実施期間）、「破線「----」（＝実施予定期間）